

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

2023 年 3 月 28 日

〒 171-0022

所在地 東京都豊島区南池袋2-49-7池袋パークビル1F

評価機関名 パブリックサービスR&C合同会社

認証評価機関番号

機構 09 - 190

電話番号 03-4570-8659

代表者氏名 代表社員 臼井 淳



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号	評価者氏名		担当分野	修了者番号
	①	臼井 淳		H0405013
	②	萩原 康子		H1801071
	③	平沢 早苗		H1601012
	④			
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	小規模保育事業			
評価対象事業所名称	保育ルームひよこっこわかまつ			
事業所連絡先	〒	183-0005		
	所在地	東京都府中市若松町4-10-11		
	Tel	042-319-0474		
事業所代表者氏名	施設長 戸澤 益美			
契約日	2022 年 10 月 28 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2022 年 11 月 18 日			
利用者調査結果報告日	2023 年 1 月 5 日			
自己評価の調査票配付日	2022 年 11 月 18 日			
自己評価結果報告日	2023 年 1 月 5 日			
訪問調査日	2023 年 1 月 12 日			
評価合議日	2023 年 3 月 20 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	第三者評価の実施にあたり、当機関における評価の進め方やスケジュールについて園と事前打ち合わせを行い、経営層及び職員に対して自己評価方法の説明を行いました。利用者調査は、入園している子どもの保護者全世帯を対象としたアンケート調査を実施しました。事業評価は、経営層及び職員個別の自己評価結果並びに利用者調査結果を分析した上で、評価者間で調査時の着眼点を共有し、訪問調査に臨みました。訪問調査では、施設長や関係職員に対するヒアリングと書類の確認を行いました。訪問調査後、評価者間の合議により評価結果をまとめました。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。
本報告書の内容を公表することに同意します。

2023 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名 理事長 正田 達夫



1	理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	<p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの最善の利益 2) 保護者の就労支援、育児支援 3) 基本的生活習慣の自立で自信をつける 4) 子ども自身が意思決定できる
2	期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）
	<p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子に敏感で感性豊かに思いを汲み取ることができ、豊かな表現で子どもの思いを代弁できる人 ・子どもを否定的に見る事なく、個性を面白いと思える人 ・子ども達を大人から見たいい子や扱いやすい子にすることなく、個性あふれる子どもで過ごせる環境作り尽力できる人 ・保護者の子育ての帆走者として温かい思いで応援し続けることのできる人
	<p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共に子どもを常に温かく包み見守り、個性を大切にすること ・保育士によくありがちな「こうあるべき、こうするべき」の古い考えを払拭し、子どもたちが生きていくであろう未来を想像しながら、「過去の大人たち中心の保育ではなく、未来を生きる子どもたちのこれからを念頭に置いた保育」を作るのだという強い思い

調査対象

令和4(2022)年11月現在、保育ルームひよっこわかまつに在籍している子ども(総数9名)の保護者全世帯(9世帯)を対象として実施しました。

調査方法

アンケート方式。評価機関から保育園に対し、本調査のお知らせの園内掲示と、個別のパスワード(保護者を特定しない形式)を記載した調査案内用紙の配付を依頼して実施しました。保護者には当評価機関専用のWebアンケートサイトから回答を入力してもらいました。

利用者総数	9
利用者家族総数(世帯)	9
共通評価項目による調査対象者数	9
共通評価項目による調査の有効回答者数	5
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	55.6

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は、「大変満足」が80.0%(4名)、「満足」が20.0%(1名)と、回答した保護者全員(100%)が満足しているという非常に高い評価が得られています。共通評価項目では、「はい」との肯定的な回答割合は、全17問中16問において80%を超えており、12問が100%でした。総合的な意見でも、「保育園に入ってからの子どもの成長がめざましく、日々よい刺激を受けていると思います」、「いつも先生方に暖かく迎え入れて頂き、伸び伸びと楽しく遊べているようで、ありがたいと思っております。遊びも工夫して頂いて子どもも色々な刺激をもらっていると思います」、「子どもに適したきめ細かい対応をしてくれるので、非常に信頼しています。送り迎え時には、保護者とのコミュニケーションを大切にしてくれており、よく会話が弾みます。外遊びも、山から、電車に乗っての散歩もあり、バラエティに富んだ日常で、子どもたちも楽しく通っています。先生方が、その年の学年のカラーに合わせた保育を考えて実行し、保護者にも伝えてくれるので、透明性のある保育園であることがよく分かります」との好意的なコメントが寄せられています。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「親子で過ごすだけではできない貴重な体験をさせて頂き、いつもありがたく思っております」とのコメントが寄せられました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「おかげ様で食への興味が湧き、食べる楽しみが増えたようです」、「毎日美味しそう。家では食べないものも園では食べているようで嬉しいです」とのコメントが寄せられていました。</p>				
4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、「山登りは季節ごとの自然に触れることができ、貴重な体験になっていると思います」とのコメントが寄せられていました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	4	0	0	1
<p>回答割合は、「はい」が80.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	2	3	0	0
<p>回答割合は、「はい」が40.0%、「どちらともいえない」が60.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				

9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	4	1	0	0
回答割合は、「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	4	0	0	1
回答割合は、「はい」が80.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	5	0	0	0
回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。				

15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	4	1	0	0
<p>回答割合は、「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が20.0%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	5	0	0	0
<p>回答割合は、「はい」が100%となっています。 自由記述には、コメントは寄せられていませんでした。</p>				

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
		○非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
		○非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	◎あり ○なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
		○非該当
	◎あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
		○非該当
	◎あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
		○非該当
	カテゴリー1の講評	
	子どもの最善の利益を基本に個人差を考慮した年齢・発達の姿へ導くことを掲げています 「子どもの最善の利益を基本に、個人差を考慮した年齢発達の姿へ導く」の保育理念のもと、「それぞれの子どもの育ちと自己主張を大切にしてみんなが安心して過ごす」、「思いきり遊び おいしく食べ よく眠る」を保育目標に掲げ、園の「全体的な計画」に設定して職員に周知し、面談時にも理念追求のための課題を伝えています。保護者には、リーフレットや保育のしおり、重要事項説明書に、達成感や安心感を得られる保育を行うとの目標を記載し、毎月の園だよりや個人面談でも伝えていますが、さらに理念や方針も整理して明示することが期待されます。	
	施設長は、保護者への対応に責任を持って行動し、理解と信頼を得ることに努めています 施設長、保育者(2歳児担当・リーダー、1歳児担当、0歳児担当)、栄養士の5名の職員が、同一法人内の連携認可園の園長や看護師の支援も得ながら園運営を進めています。施設長は、保護者への対応に責任を持って行動し、大きな課題や子どもの将来を見据えた対応が必要な場合は、面談等を通じて情報提供や助言を行い、理解と信頼を得ることに努めています。法人のキャリアパスのもと、職務・業務分担表等を作成して役割や担当を明確にしていますが、今後、法人内のリーダー職・指導職内の職位に応じた権限や責任を明確化することも必要と思われる。	
	職員会議や昼会議で法人の決定事項を周知し、園の保育活動の検討・決定を行っています 経営・運営に関する事項は、法人理事長と連携認可園の園長で検討・決定を行い、毎月の全体会議や毎日の昼会議で、施設長から職員全体に報告を行っています。これらの会議で保育活動や行事内容の検討・決定も行っているほか、小規模な組織のメリットを活かし、難しい課題や小さな出来事も迅速に全職員に伝達し、相談しながら対応しています。ノートでの回覧と確認サインにより会議内容の共有徹底に努めていますが、書式化して項目や記載内容を揃える等の工夫も期待されます。保護者には、月1回発行の園通信や掲示等を通じて重要な情報を伝えています。	

カテゴリ-2		
2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行		
サブカテゴリ-1 (2-1)		
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(○○○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○非該当
●あり ○なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○非該当
●あり ○なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○非該当
○あり ●なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○非該当
サブカテゴリ-2 (2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(○●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	○非該当
○あり ●なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(●●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○非該当
○あり ●なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○非該当

カテゴリー2の講評

保護者や職員の意向、地域の現状等を収集・把握し、保育への反映に努めています

半期ごとの保育アンケートや保護者参加行事後のアンケートを実施して保護者のニーズの把握と保育への反映に努めており、丁寧な回答を含めて集約結果を保護者に返しています。職員の意向は連携認可園の園長の面談のほか、施設長が日々の会話を通じて把握し、地域の現状や課題は、市内の私立保育園園長連絡会への参加等により収集・把握しています。経営状況は、法人で作成した予算・決算が伝えられており、財務情報等も職員や保護者に公表していますが、法人との協議の場も設け、当施設の改善課題に合わせた予算提案等ができると思われまます。

当施設としての対応課題を抽出し、中・長期計画の策定につなげることが望まれます

法人及び連携認可園の中・長期計画があり、この10年で達成したことを振り返り、今後5年で達成したいこと等を明確にしています。しかしながら、当園に直接関わる内容が設定されていないこともあり、職員には共有されていません。収集・把握した意向やニーズ等から、保育面に限らず、施設の運営・業務上に関わる課題も含めてリストアップし、複数年かけて解決していけるように、課題別の取り組みや、その着手時期、実行期間等を法人の中・長期計画に盛り込んだり、当園単独の中期計画を策定するなどして、方向性を明らかにすることが望まれます。

毎年度の施設の事業計画を充実させ、全職員で取り組みを進めることが期待されます

当施設の事業計画には、年間の行事予定を中心に記載しています。同一法人内の連携認可園では、毎年度、「保育事業内容」を作成し、基本理念や保育方針、地域の現状、中・長期計画、事務・業務や会議、係、行事の枠組みや取り組みの骨子、職員の心構え等をまとめていることから、こうした内容を参考に、施設の年度計画を充実させ、全職員に説明・周知して進めることが望まれます。長引くコロナ禍で、法人内の密な情報共有・連携が図れなくなっていた状況を見直し、法人経営層の理想を実現していくための当施設の在り方を再検討することが期待されます。

カテゴリー3

3 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(3-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1

社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	○非該当

サブカテゴリー2(3-2)

利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況

評価項目1

利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○非該当
●あり ○なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○非該当

評価項目2

虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○非該当
●あり ○なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○非該当

サブカテゴリ-3(3-3)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目1

透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点(〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○非該当

評価項目2

地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点(〇〇●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	○非該当
○あり ●なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-3の講評

守るべき法・規範・倫理等は、就業規則やマニュアルを通じて全職員に周知しています

入職時には雇用契約書と誓約書を取り交わし、就業規則と個人情報保護義務の遵守について誓約してもらうほか、規定の改正等があった際には周知を行っています。入園のしおりや重要事項説明書に相談・苦情窓口(第三者委員や府中市の担当課等)を記載して入園説明会で伝え、苦情等があれば施設長や連携認可園の園長が対応し記録簿に残す仕組みとしています。虐待防止マニュアルを整備し、職員は言動に関する自己チェックリストにより振り返りを行っています。家庭等での虐待等の情報や疑いがあれば、関係機関と連携して対応するようにしています。

在宅子育て家庭への支援事業など、自然な形で地域と交流し、貢献につなげています

園の機能や専門性を地域に活かした取り組みとして、在宅の子育て世代に遊びに来てもらう「びよっこの会」を定期的で開催しており、市の広報紙等で案内し、年間20組程が参加しています。職員は、参加者からの子育てや発達に関する悩み等を聞き、助言等にも努めています。また、日々の保育の中でも、散歩先で出会った親子に対し、当園の紹介をしながら子育ての相談に応じたり、近隣の児童施設と日常的に子どもたちと一緒に挨拶や言葉を交わし、年1回、合同の避難訓練を実施するなど、自然な形で交流し、地域貢献と自園の活動の充実につなげています。

園の透明性確保に努めていますが、地域と連携・協働していける関係作りも期待されます

同一法人内の連携認可園のホームページに当園の概要を載せているほか、日々の活動の様子をSNSに掲載して会員限定で公開しています。コロナ禍でも一定条件がクリアできれば見学者やボランティアを受け入れており、毎年度、小中高生が保育体験等に訪れています。地域のネットワークとしては、市内の連携園2園と情報交換を行い、市内私立保育園園長連絡会にも参加しています。今後、小学校区の代表が集まる地区協会の参加も検討しており、地元自治会も含め、地域の共通課題に連携・協働して取り組める関係作りを進めることが期待されます。

カテゴリ-4		
4 リスクマネジメント		
サブカテゴリ-1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(○○○●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○非該当
●あり ○なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○非該当
○あり ●なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	○非該当
○あり ●なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○非該当
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(○○○●)
評価	標準項目	
○あり ●なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している	○非該当
●あり ○なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○非該当
●あり ○なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○非該当
カテゴリ-4の講評		
<p>感染症と事故の防止に重きを置いて取り組んでいますが、対応の見直しも望まれます</p> <p>感染症と事故への対策に重きを置いています。国の感染症対策ガイドラインを備え、園の事故防止・発生時のマニュアルを作成して職員間で共有しているほか、職員は保健衛生・安全対策やアレルギー対応に関する外部研修も受講しています。空気清浄機を設置し換気や消毒を徹底したり、ヒヤリハットは保育日誌内で共有したり、病気やけがをしない身体作りに努めることで、近年は事故が殆どない状況です。保護者にも園日より等で情報を提供していますが、伝え切れていない状況も窺え、園内の安全・防犯対策等を見直し、伝え方を工夫することが望まれます。</p> <p>事業所防災計画等を整備しており、さらにBCPの策定につなげることが期待されます</p> <p>事業所防災計画や消防計画、防災マニュアルを整備し、災害時に子どもたちをどのように守るかを「防災の手引き」にまとめ、職員や保護者に提供しています。園では毎月避難訓練を実施し、保護者にも協力を依頼して年1回引き取り訓練を実施しています。連携認可園では、大規模災害対応計画を策定し、発生時間・場所に応じた職員の動きや、園内での生活の維持、帰宅困難者、復旧と再開等の対応、備蓄等をまとめていることから、災害時の協力・連携体制も考慮して計画を共有したり、当園の事業継続計画(BCP)の策定に活かしていくことが期待されます。</p> <p>セキュリティを確保しつつ、必要な情報を全職員が活用できるよう管理に努めています</p> <p>パソコンは、全職員が使用できるようにする一方で、ネットワークへの接続を限定し、パスワード設定等によりセキュリティを確保しています。書類も種類別にファイリングしてラベルを付し、使いやすいよう整理しつつ、外部への持ち出しを制限しています。今後の施錠管理等の在り方の再検討と、情報管理の規程・マニュアルの整備が望まれます。個人情報の保護に関する規程を定め、第三者提供や園内掲示等について保護者の同意を得ていますが、実効性ある管理と法改正対応のため、他の利用目的や開示請求の手続き等も保護者に明示することが望まれます。</p>		

カテゴリ-5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリ-1 (5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
◎あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
◎あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
◎あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
◎あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリ2(5-2)

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況

評価項目1

組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
◎あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
◎あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当

カテゴリ5の講評

人材の育成や風通しの良い職場作りの観点も踏まえ、職員の配置・異動等を行っています

多様な媒体を通じて職員を募集し、書類選考と連携認可園の園長や施設長の面接を通じて採用しています。ゆっくりと当法人の考え方を身に付けてもらえる人材の採用を図っていますが、当園は少人数のため、ベテランの即戦力を配置しています。就業規則や給与表を定めるとともに、就職フェアへの参加を機に、園としてどのような人に働いてほしいかも明確にしています。職員のクラス担当や異動は、本人の希望や、同一法人内の連携2園を含めた人員配置の状況、人材育成と風通しの良い職場作りの観点等を考慮して、連携認可園の園長を中心に決定しています。

キャリアパスや個々の希望を基に、職員が研修を受講できるよう組織的に支援しています

入職時に研修を実施し、職種や勤務に応じた職務内容やキャリアパスを周知しています。正職員は年2回以上、非常勤は年1回以上の研修参加を必須とし、各自の「研修等目標」の希望を基に派遣しています。受講は勤務扱いとし、受講後は学んだことや考察、感想等を研修報告書にまとめ、回覧等により成果を共有するとともに、個々に振り返りを行う仕組みも設けています。全職員の年間の研修参加一覧表をまとめ、キャリアパスや個人目標に沿った年間の行動の自己評価、施設長や連携認可園の園長との面談を通じた評価の結果を給与等に反映しています。

職員の働きやすさに配慮していますが、法人内連携園間の協力体制の強化が期待されます

法人として働き方改革を進め、1か月単位の変形労働時間制を導入して柔軟な勤務を可能にし、介護や通院、育児等の事情でも休みが取りやすいよう配慮しています。法人全体の離職率は低く、65歳以降の雇用の在り方の検討も進めています。当園では、5名の職員全員が保育士・栄養士の有資格者で常勤という安定した体制ですが、非常勤の配置がなくなったことで、休憩や有休が取りにくくなり、残業が増えたとの職員の声も聞かれています。コロナ禍で減少した連携園間の情報共有や交流研修の機会を増やし、協力体制を強化していくことが課題と思われれます。

カテゴリー7

7 事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1(7-1)

事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

子どもへの言葉かけや対応の仕方、保育内容、全てにおいて、職員が自分の価値観のみで、大人主体の、自分本位の保育になってしまう可能性があるため、「子どもの最善の利益を基本に、子どもらしい子どもに育てること」を目標に、以下に取り組みました。
 ・両親のもとから初めて離れて生活する場でも、家庭と同じように愛され、包まれているような温かさを感じることのできる場所、自分の思いを代弁してもらえ、分かってもらえる安心できる場所を意識する。
 ・子どもたちの意欲が湧き、自らやりたくなるような活動を設定する。
 ・保護者への情報の提供、日々の育児・仕事の疲れを癒すような朝夕の会話、個人面談等を行う。
 ・保護者と共に育児の共有をしていけるような保育参加や給食の試食を実施する。

<p>目標の設定と 取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

施設長は、日々の保育の中や会議などで、なぜ子どもに対してこのような関わり方をするのか、大人との関わり方で子どもの発達がどのように変わっていくのか等を丁寧に職員一人ひとりに伝えてきました。また、乳児保育(0、1、2歳児の保育)に関する自主的な学びを職員全員で行いました。保護者への伝え方やピックアップして話しておいた方がよい子どもの発達のことや子どもへの声のかけ方、関わり方等の情報を皆で相談しながら園だよりに記載しています。園では、これらの取り組みにより、職員一人ひとりの実力向上につながり、到達点に至ったと自己評価しています。子どもの発達を常に考えながら子どもたちに必要なこと、保護者に伝えていくべきことが分かるようになってきており、利用者調査(保護者アンケート)での非常に高い評価につながっています。一方で、目標に対する取り組みの経過や結果、次年度への反映に関する記録は曖昧な部分も見られ、事業計画や事業報告の中で明確にしていくことが望まれます。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

保育士の質の向上は、子どもの発達を如何に理解しているかによるため、「職員がそれぞれの担当する年齢の子どもの心身の発達の理解をより深めていくこと」を目標にしました。年齢別の成長・発達や自発性を伸ばす保育内容の研修を受講したり、保育日誌や年間指導計画を振り返りながら、日々2~3か月前、1年前の子どもの姿を振り返ったりすること、今日の保育の中で、子どもとの関わりで出てきた疑問や、これで良かったのかの振り返りは必ず行いながら、誰かに話し、皆で共有していくことに取り組みました。その結果、職員個々の取り組みや目標の設定もできるようになり、保育の見通しがしっかり持ってきていると自己評価しています。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていない(目標設定を行っていない場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

保護者への対応も、子どもの成長・発達の様子を絡め、その日の楽しそうだったことなどを織り交ぜて朝夕の会話ができるようになってきました。また、発達を意識できていることで、保護者からの話に必要な情報を考えたりすることができ、保護者支援にもつながっています。今後は、これらの取り組みの意図や手段について、より具体的に事業計画等に設定していくとともに、事業報告に結果や成果を明確に記載して共有できるようにしていくことが望まれます。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(0000)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○非該当
●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている	○非該当
●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○非該当
サブカテゴリ1の講評		
<p>当園の情報は、リーフレットやホームページ等を通じて分かりやすく提供しています</p> <p>当園の情報は、リーフレットやホームページで提供しています。リーフレットには、園の目標、定員と一日の流れ、自然と触れ合い伸び伸びと体を動かす活動を紹介しています。同一法人内の連携認可園が管理するホームページでは、連携園の紹介という形で概要を載せています。さらに、不特定多数にではなく、園に足を運んだ人やつながりのある人に対して、SNSを通じて給食や散歩、制作物等の様子を発信しています。子どもと職員のやりとり、子どもと同じ目線からの散歩の風景など臨場感を持って伝えており、利用希望者や見学者にも紹介しています。</p> <p>利用希望者が情報を入手しやすいように、行政や関係機関に情報を提供しています</p> <p>府中市役所には運営状況や活動の情報を定期的に提供しており、市内の子育てに関する情報誌「子育てのたまたま箱」には、当園の保育方針や定員、保育時間、延長保育等について掲載しています。未就園児を対象とした保育施設を紹介するイベントに際しては、園のパンフレットを提供するなど、利用希望者の情報入手に役立てています。また、市が主催する地域の子育て家庭を支援する「子育てひろば事業」に参加しています。園庭で一緒に遊んだりお散歩に行く機会などの提供について、地域向けの掲示により開催予定日を周知しています。</p> <p>問い合わせや見学者には、当園の特徴や様子について丁寧な説明に努めています</p> <p>問い合わせや見学は、希望者の都合に応じ、主に施設長が対応しています。子どもの様子を見てもらうことを大事にし、日程が合えば在園児と一緒に活動する園庭開放等の子育てひろば「びよここの会」を案内し、参加を呼びかけています。また、入園に関して、地域型保育事業の当園は、必要な保育時間の長さが優先されない審査基準となっていること、家庭的な雰囲気と充実した職員配置が乳児期に適した環境であること等を伝えています。3歳児までの園として、連携認可園を含めた移行先の選択についても、希望者の関心に応じて丁寧な説明に努めています。</p>		

サブカテゴリ-2		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		○非該当
●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		○非該当
●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		○非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		○非該当
●あり ○なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		○非該当
サブカテゴリ-2の講評			
<p>入園面接や利用前の面談で保育園の基本事項を説明し、保護者の同意を得ています</p> <p>入園面接や利用の決定後の面談で、施設長が保育園の生活に関する基本事項、健康管理等について説明を行っています。「重要事項説明書」の資料を配布し、「保育のしおり」に沿って具体的なサービス内容、園での活動、持ち物など必要な準備について伝えています。また、各家庭での協力が必要な生活の基本的なルールについても理解を得ています。なお、個人情報の取り扱いのほか、アレルギーや熱性けいれんなど個別の配慮が必要な場合の対応等については、保護者から詳細について聞き取るとともに書面で同意を明確にしています。</p> <p>個別の状況の把握と「慣れ保育」の実施により、円滑なサービス開始につなげています</p> <p>面談では、保護者の保育に関する希望や育てほしい子どもの姿を聞き取り、就労状況等の家庭の事情、子どもの呼び方、好きな遊び、入眠時の癖などを「新入園児面接票」に記録しています。家庭での過ごし方を把握し、子どもが環境の変化に馴染めるように情報を活用しています。また、慣れ保育(短縮保育)の期間を約1週間設け、保護者も同室で過ごす時間を作っています。保護者と一緒にいるのを見て、保育者を信頼できる大人と認識してもらうとともに、子どもと離れる経験が初めての保護者と様々なことを共有することで、不安の解消につなげています。</p> <p>子どもの卒園・転園時にあたっては、様々な取り組みにより支援の継続に努めています</p> <p>子どもの卒園・転園時には、継続的な支援につなぐ様々な取り組みを行っています。保護者と面談の機会を設け不安について記録し、了解を得た上で各種支援機関との連携を図っています。3歳での卒園後、希望者は連携認可園に編入する枠が確保されており、在園中から近隣の連携園、本園の子どもと交流する機会を取り入れています。移行先については、立地や保育内容等の希望を把握し、他園や先輩卒園児の状況も踏まえ、相談に乗っています。卒園後も立ち寄ることや相談を歓迎する旨を伝え、保育園とのつながりを継続できるよう配慮しています。</p>			

サブカテゴリ-3

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の
標準項目実施状況 11/12

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○非該当
●あり ○なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○非該当

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(0000●)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○非該当
●あり ○なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○非該当
○あり ●なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○非該当
●あり ○なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	○非該当

評価項目3

子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○非該当
●あり ○なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○非該当

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(00)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○非該当
●あり ○なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○非該当

サブカテゴリ3の講評

子どもの情報や保護者のニーズを把握し、連携園統一の書式に記入しています

入園時に施設長が保護者と個別面談を行い、家庭での様子や保護者の意向を聞き取り、「新入園児面接表」に記入しています。子どもに関する情報は連携園統一の書式(保育日誌、児童票、健康観察票、個人面談等)に記載し、個別のファイルに整備しています。送迎時の保護者とのコミュニケーションを大切にし、日頃から子どもの情報や保護者のニーズの把握に努めています。また、保育アンケートを実施し、保育内容、食育活動、親子参加行事について寄せられた保護者の意見を計画の見直しに活かすとともに、集約結果を紙面にまとめ保護者に配付しています。

作成している各指導計画を、保護者に分かりやすく伝える取り組みが期待されます

保育理念や基本方針に基づいて「全体的な計画」を立案し、年間を4期に分けた個別の年間指導計画を作成しています。さらに、毎月のねらいを具体化した週案を作成し、週単位の活動内容を記入しています。日案は保育日誌と兼ね、年齢別に当日の様子を詳細に記録しています。計画の作成及び評価には全職員が携わり、定期的(期・月・週ごと)に見直し、必要に応じて修正しています。今後は、園だよりや連絡帳に指導計画に沿った年齢別のねらいを載せたり、個人面談で個別の課題を伝えるなど、保護者に分かりやすく説明する取り組みが期待されます。

個々の子どもの状況を職員間で確認・共有した上で、成長の推移を記録しています

年齢別の保育目標はしおりに明記されており、毎月の活動の意図や子どもの姿は園だよりで詳しく知らせています。指導計画に沿って実施した保育内容や子どもの変化は「個別成長記録」や、保育日誌「目標に達するまでのプロセスと子どもの姿」に記入しています。子どもの育ちを記録する際は、養護の視点を重視し、エピソードを交えて具体的に書くことを心がけ、記録の担当者は周囲の職員に確認し、個々の発達過程を共有した上で記入しています。週2回の保育会議や日々の振り返りは、「会議ノート」を活用して回覧し、職員間に周知徹底しています。

サブカテゴリ-5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得ようとしている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		○非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		○非該当
サブカテゴリ-5の講評			
<p>個人情報やプライバシーの保護、子どもの羞恥心に配慮した保育を進めています</p> <p>個人情報の使用に関しては、あらかじめ保護者に意向を確認しており、医療機関や支援機関など外部との子どもの情報の共有が必要な場合は、その都度保護者に伝えていきます。また、人としての好奇心、羞恥心の芽が育つ時期を見極め、排泄やシャワー等の場面では子どもの理解に応じて、全裸にならない着替えの手順を示したり、友達をからかったりすることないように伝えていきます。なお、子どもが何かに失敗した際は、周りに気づかれないことに注意を払ったり、気持ちを傷つけることにつながる言動をしないことの徹底を図るなど、羞恥心に配慮しています。</p> <p>一人ひとりの気持ちを考えながら、丁寧に関わることを大切にして保育を行っています</p> <p>園として「個々の発達に応じた生活力を身につける」ことを方針に掲げ、成長過程は子どもにより異なることへの理解を深めています。また、保育の基本となる「子どもの最善の利益」を追求する姿勢がどのような言動になるべきか、職員は常に意識しています。言葉が十分出ない中でも主張する気持ちが見られれば、できる限り受け止め、子ども自身が納得して行動することを大事にしています。乳児同士のやり取りに、職員が笑顔を基本に表情豊かに、また身振りを交えて関わることでコミュニケーションを図り、一人ひとりの気持ちを尊重しています。</p> <p>子どもや家庭の状況や価値観を把握し、関係機関とも連携して適切な支援に努めています</p> <p>「虐待防止マニュアル」を備え、職員の虐待への理解を深めています。また、外部の研修に参加して、職員の言動の振り返りのきっかけにするとともに、子どもへの接し方に悩む保護者に対して、適切な助言の仕方についても情報を得ています。家庭の価値観についても把握し、園の活動と合わないことがあれば、検討を重ねています。さらに、いわゆる育児困難家庭について、保護者への傾聴の姿勢で接し、園でできることを検討しています。子どもや家庭の様子等について職員間で共有し、関係機関や連携認可園と連携しながら適切な支援に努めています。</p>			

サブカテゴリ-6		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	4/5
6	事業所業務の標準化		
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(○○○)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている		○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している		○非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○●)	
評価	標準項目		
○あり ●なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている		○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている		○非該当
サブカテゴリ-6の講評			
<p>園独自の詳細なマニュアルを作成・整備し、業務の標準化に向けて活用しています</p> <p>マニュアルとして、事故防止、水遊び・プール遊び、保健関係、給食関係、人権擁護、アレルギー対応等を作成しています。乳児対象で小規模な園に合わせて独自に編集し、大事なことは細かい動きまでイメージできるように書き込んでいます。法改正や市の指導に合わせて年に1回は見直し、水遊び等の季節の活動は始まる前に全員で確認するなど、記憶に頼らず、基本に立ち返ることを心がけています。園で発生した気になることや、ニュースや研修で取り上げられたことに関連する内容を見直していますが、さらに計画的な改訂・充実への取り組みも期待されます。</p> <p>役職や経験による職務内容を明示しており、自らの業務を振り返る仕組みがあります</p> <p>役割による職務を明示するとともに、保育活動について主な分担を定めています。日課に合わせ、時系列で活動の準備や水分補給などを整理し、リーダーとサブの役割分担について整理しています。また、園が目指す保育を一定以上の水準に保つため、コミュニケーションを密に図って保育の方向性を確認し合っています。さらに、保育について経験別に求められる業務を整理し、自らができているか確認する仕組みを持っています。子どもの思いを代弁した言葉かけ、生活スキルを身に付けるための温かい関わりができる、などを振り返る機会となっています。</p> <p>活動について保護者の意見を取り入れ、職員も日常的に提案する体制となっています</p> <p>保育の基本事項や手順に関しては、日常的に職員間で留意点等を確認しています。5名の職員が皆で意見や提案を出して検討する体制が整っており、分からないことがあれば施設長をはじめ他の職員に常に相談できる関係性となっています。保護者からの意見には日々柔軟に対応することを心がけており、併せて定期的に保育に関するアンケートをとっています。日常の保育(園外活動、ボランティアや実習生の受け入れ、地域交流等)、食育活動、保護者参加行事、送迎の手順等への意見を集約し、園としての回答を示し、統一感のある対応につなげています。</p>			

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施項目		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	32/34
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている			
		評点(00000)・非該当1	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
○あり ○なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している		●非該当
評価項目1の講評			
<p>担当制による細やかな保育と全職員による見守りの中で、信頼関係を築いています</p> <p>担当制の保育を行い、子ども一人ひとりの思いを十分に受け止め、愛情豊かに応答的に関わっています。担当制保育を実施するにあたり、10名の子ども達を全職員で見守ることを基本に、担当者間のコミュニケーションを密に図っています。多角的な視点で子どもの全体像を把握し、「歩きたいチーム」は長距離の散歩に出かけ、「のんびりしたいチーム」は近隣の探索活動を存分に楽しむなど柔軟に対応しています。0～2歳児の異年齢集団の中で、安心して自己発揮し、あるがままを受け止めてもらえる環境があり、大きな家族のように信頼関係を築いています。</p> <p>身近な物への子どもの興味・関心を引き出す環境を作り、様々な玩具を提供しています</p> <p>個別の配慮が必要な子どもの保育にあたっては、保護者との面談を定期的実施しています。保護者の気持ちに寄り添いながら意向を聞き取り、健康、情緒、発達の様子を丁寧に伝え、援助の方向性を確認しています。担当者は適度な距離を保って見守り、子どもの様子を常に観察し、場面に応じた言葉かけや援助を行っています。職員は、子ども同士を結びつける仲介となり、共に成長できるよう関わり方を知らせています。子どもたちがみんなで遊び、一緒に生活する中で、互いの良さに気づき、個性を尊重し合える心が育つように援助しています。</p> <p>子ども同士のトラブルには、状況を把握し、双方の気持ちに寄り添い対応しています</p> <p>職員は日々の保育を伝え合い、様々な場面での対応方法を考えられています。また、一人ひとりの子どもの体調や心の状態に配慮しています。子ども達は職員を名前呼び、困ったときはいつでも助けてくれる存在となっています。発達の過程で生じる子ども同士のトラブルは、直ぐに止めに入ったり、一方的な判断はせず、危険がない限り見守るようにしています。双方の子どもの思いを平等に聞き入れ、言葉ではまだうまく話すことができない子どもの気持ちを代弁しています。原因を見つけて解決する力や、社会性が身に付くよう肯定的に援助しています。</p>			

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○非該当

評価項目2の講評

登園時は健康状態を聞き取り、保護者との会話で子どもの様子を確認しています

毎朝の受け入れは、保育室の出入口で行っています。雨天時に対応できるよう入口の手前にテントを張り、検温や視診を行っています。保育中に転んですり傷ができたときは、翌朝必ず怪我の状況を確認することをルール化しています。家庭との連続性を踏まえ、一人ひとりの健康状態を丁寧に聞き取り、前日から当日までの様子を把握しています。連絡ノートの記載事項にもしっかりと目を通し、受け入れ時に得た新たな情報を含めて「健康観察表」に記入し、職員間で共有しています。毎日の保護者とのやりとりを大切に、信頼関係を築いています。

基本的な生活習慣の自立を目標に、子どもの自分でやろうとする気持ちを育てています

子どもの24時間の生活を視野に入れて家庭での就寝時間を把握し、個々の生活リズムに合わせ必要な休息(昼寝)をとっています。排泄は個人差を踏まえ、トイレトレーニングの開始時期を保護者に相談しています。食事前に思い切り体を動かし、お腹を空かせておいしく食べることを大切にしながら、食具の三点持ちや食器に手を添えることを知らせています。手洗いや着替えなど清潔に関することは、なぜ必要なのか理由を伝えています。職員の言葉かけは最小限に留め、不要な手出しを控え、自ら行動できるよう働きかけ、意欲を育てています。

降園時に子どもの様子を丁寧に伝え、生活の安定や保護者の安心につなげています

職員の大半は8時30分から17時30分まで勤務しており、担当職員が一日の様子を保護者に詳しく伝えています。日々の保育内容を丁寧に伝えることで、子どもの心身の発達には個人差があることや、今後の見通しなど保護者との共通認識を図っています。子育ての伴奏者として保護者の悩みに耳を傾け、適宜アドバイスしながら疑問や不安の解消に努めています。保護者と担当職員がキャッチボールをするかのように日々の会話を重ね、信頼関係を構築しています。保護者との良好な関係は、子どもの生活の安定や保護者の安心につながっています。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当

評価項目3の講評

子どもたちが自ら関わりたくなる園庭環境を作り、好奇心や探求心を育てています

子どもの思いを汲み取り、禁止の言葉を使わないという考えのもと、時間に追われることなく活動に取り組んでいます。園庭には築山や砂場があり、シャベルや型抜き等の玩具に加え、タイヤや大きなプラスチック製のカゴを設置しています。訪問調査当日は、大きなカゴやタイヤの中に入って乗り物をイメージしたり、伏せて台のようにして登ったり、築山から駆け下りたり、生き生きと遊ぶ子ども達の様子が見られました。玩具や道具の使い方を限定せず、探求心を育む時間と空間を保障することで、子どもたちは好奇心を持って遊びを豊かに展開しています。

子どもたちが毎日の活動に主体的に関われるように言葉をかけ、援助しています

子育ての基本は乳児期にあるという考えのもと、子どもの主体性を育てるために、自ら考え動きたくなる環境作りに努めています。担当職員は、子どもが求めていることを個別に把握し、「お母さんにプレゼントするどんぐり探しに行こう」など、指示ではなく誘いかけの言葉をかけています。子どもの歩きたいという欲求を満たし、散歩の中で見つけた草花や虫、園庭の草木や栽培活動など、身近な自然から季節の変化を感じています。浅間山ではソリ遊びに挑戦し、保育目標に掲げている「できた」の気持ちを感じとり、友達と喜びを分かち合っています。

自由に表現遊びを楽しめる場を提供し、戸外遊びで決まりの大切さを知らせています

子どもが自由に取り出せるよう、様々な素材や手作り玩具を配置し、自分で考え試行錯誤できる遊びの場を提供しています。制作活動は材料をさり気なく並べて、興味を持った子どもから取り組んでいます。子ども達は自由に描いたり塗ったりする中で色の違いに気付いています。手形や足形でクリスマスツリーを飾り、正月遊びの福笑いでは、目鼻口のパーツから顔を認識しています。戸外遊びでは、保育室の出入口の扉や門扉の開閉は大人が行い、道路の押しボタン式信号も大人が押すというルールを設け、決まりを守る大切さについて知らせています。

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○非該当
評価項目4の講評		
<p>行事に対する考え方や目的を明確にし、共通認識を持って行事に取り組んでいます</p> <p>当園では、行事に対する考え方として、成果を見せ評価することではなく、保護者と共に子どもの成長を喜び合うことを目的に行事を行っています。保護者参加の行事は、子どもたちを真ん中に保護者と職員が育ちの姿を共有する機会と捉えて実施しています。当日に向けて一斉にみんなが同じことをするような活動は控え、日頃の取り組みを行事につなげています。日本文化を伝える伝承行事や季節を感じる行事も取り入れ、「冬至の会」では柚子の足湯を体験しています。連携園の行事にも参加し、「こっこ夏まつり」で納涼会を楽しんでいます。</p> <p>誕生会、伝承行事、連携園との交流活動を通して、子どもの経験の幅を広げています</p> <p>誕生会は入所している10名の子どもの誕生月にそれぞれ開催しています。ハンバーグ等のパースデーメニューやお楽しみ給食(行事献立)を提供しています。七夕、月見、クリスマス、新年の会、節分、桃の節句など、年間予定表に沿って実施し、記録を作成して振り返っています。コロッケ作り等のみんなでの食育活動は、2歳児から「お家でもやりたい」の声が上がり家庭でも楽しむことにつながっています。3歳以降の保育を見据え、連携園の行事への参加や毎月の交流保育「ひよこっこ交流」の実施により、いつもと違う場所や人との関わりを広げています。</p> <p>子ども・保護者・職員が交流し、共に楽しむ中で、保護者の理解・協力を得ています</p> <p>行事への取り組みの様子は、園だよりや連絡ノートで知らせています。園だよりに保育の方針に沿った活動内容を報告形式で記載し、分かりやすく伝えています。親子が参加する行事に取り組むことで、孤立しがちな子育て世代の仲間作りを支援しています。保育参加、給食試食会、個人面談、お散歩の会などの行事を通して、園での生活や友達関係、職員の子どもへの接し方を見てもらっています。何でも気軽に話せる雰囲気を作って交流を深め、保育への理解や協力を得ています。終了後はアンケートを実施し、園だよりに集約結果を載せています。</p>		
5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(○○)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>担当制の保育により、一人ひとりの子どもに寄り添い、安心できる場を提供しています</p> <p>年齢別に担当制の保育を行い、朝から夕方まで同じ職員が保育にあたっています。年度当初は年齢や発達に応じて2つのグループに分け、一人ひとりを細やかに把握しています。長時間保育を必要とする子どもは少なく、子どもを急かせることなく、ゆったりと関わり気持ちに寄り添っています。どの時間帯も温かく包み込むように子どもを見守り、個性を大切に、子ども達のやりたいことを存分にできる環境作りに努めています。担当職員は「一緒にいて嬉しい人」、「一緒にいたい人」という情緒的な絆を形成し、子どもに安心感や安定感をもたらしています。</p> <p>一日を通して子どもたちが楽しく過ごせるように、一人ひとりの思いに応えています</p> <p>午前8時から8時30分、午後4時30分から6時までの延長保育を実施しています。子どもが疲れてぐずり始めたときは、抱いたりおんぶをして個別に対応しています。また、いつでも横になって休めるようマットを用意しています。一人ひとりの好きな遊びを把握し、興味・関心に合わせて絵本やパズルなどの玩具を配置しています。一日の保育の形態に大きな変化はなく、担当職員が交代することもほとんどなく、安定した保育を行っています。お迎え時には、「お帰りのさい」という言葉の後に、毎日必ずその日の様子を伝え、保護者の安心につなげています。</p>		

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(0000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当

評価項目6の講評

食育計画に掲げる「みんなでおいしくたのしく」に向けて、食の環境を整えています

栄養士が食育計画を立案し、「みんなでおいしくたのしく」を目標に離乳食や幼児食を提供しています。食材を炒めたり揚げたりする音や、料理の香りを子ども達は五感で感じ取っています。和やかで温かな雰囲気を作り、個々の食欲や好みを把握し、子どもが食べ切れる量を盛り付け、おかわりにも応じています。0歳児は発達に合わせて、食卓付きの椅子から1歳児と一緒にテーブルに移行し、年上の子どもがスプーンを使って食べる様子を見て、良い刺激を受けています。職員も一緒に食事を摂り、噛む大切さを知らせ、大きな家族のように食卓を囲んでいます。

盛り付けに工夫を凝らし、季節を感じられる献立や戸外での食事を楽しんでいます

栄養士が作成した献立表に基づき、和食を中心に薄味で素材の味を活かし、旬の魚や野菜を食材に取り入れています。毎日の食事やおやつは、Instagramに掲載するとともに、写真にコメントを添えて掲示しています。すいか割りをしたり、クリスマスツリーに手作りクッキーを飾り、おやつ時間に好きな形を選んで食べたり、季節を感じられるよう趣向を凝らしています。給食を弁当箱に詰め替えて府中の森公園まで栄養士が届け、戸外での食事を楽しんでいます。毎月の食育会議では、子どもたちの喫食状況を確認し、翌月の提供方法を検討しています。

1～2歳児が参加できる食育活動に取り組み、食への興味・関心を育てています

近隣の農家やスーパーで新鮮な食材を仕入れ、地元のパン屋で焼きたてのパンを購入し、地産地消を推進しています。地域の畑や園庭栽培で収穫したトマト、キュウリ、ブロッコリー、ナス、絹さやを栄養士が調理し給食で提供しています。子ども達は畑で抜いた大根を洗ったり、ラップでお握りを作ったり、1～2歳児でも無理なく参加できる食育活動を実施しています。山賊揚げ、味噌ポテト、芋汁などの郷土料理も取り入れ、食文化を伝え食への興味・関心を育てています。発達に合わせた離乳食の作り方や提供方法を保護者に伝え、栄養相談にも応じています。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(○○●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもが健康にたくましく成長発達することを、保健計画の目標として実践しています</p> <p>「子どもが健康にたくましく成長・発達し、保育所生活を快適に送ることができる」ことを保健計画の目標に定め、活動を進めています。同一法人内の連携認可園の看護師と連携し、生活リズムを整えることや手洗い・うがい、戸外で沢山体を動かすこと、暑さ・寒さに対応できる身体作りについて、実践を通して子どもに分かりやすく伝えるなど、自分の身を守る力を高めていけるように支援しています。園内は換気と消毒の徹底を図り、職員は子どもに多い肌トラブルへの適切な対処法等について知識を得ています。</p> <p>0歳から戸外活動を積極的に取り入れ、子どもがけがをしない身体作りにつなげています</p> <p>ほぼ毎日、園庭で遊び、戸外にも頻繁に出かけています。歩けない内から手足を動かすことを大事にし、動きたい気持ち、立ちたい気持ちに応える関わりを進めています。園庭では、自由に動き回れることを基本に職員が近くで見守り、子どもが少し高いところに登ろうとしたり、重い物を持ち上げようとするれば、安全を確保しながらやりたい気持ちに寄り添っています。日々の活動が体幹や瞬発力、バランス感覚を鍛えることにつながり、けがが少ないことに結び付いています。また、車や自転車との安全な距離の取り方を知らせるなど、身を守ることも伝えていきます。</p> <p>感染症をはじめ健康作りに関する情報を、資料配布や掲示等で保護者に提供しています</p> <p>入園時には、重要事項説明書に沿って、感染症や乳幼児突然症候群(SIDS)や、園と家庭の基本的な対応や役割について保護者に説明しています。また、感染症の発生時には、注意喚起を含め具体的な対策を伝えています。保健日よりでは、季節的に流行がみられる疾病等の情報、生活リズムの整え方、虫歯を防ぐ習慣など、子どもの健康作りに関する記事を掲載しています。子どもたちの健康の維持や増進のために、適切に情報を提供して相談体制を整えるなど、家庭との連携を図りながら取り組んでいます。</p>		

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点(00000)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○非該当
●あり ○なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○非該当

評価項目8の講評

個々の子どもの家庭と十分にコミュニケーションを図り、事情に配慮して支援しています

入園説明時や個人面談で、保護者の子育て状況や就労状況等を把握しており、保育時間や活動は、家庭のその時の状況や意向にできる限り応えることを基本としています。日常的に職員は、発達に関することをはじめ、在宅ワークや変則的な勤務シフトなど就業状況、家族の心身の状態について、何でも話を聞くという姿勢で接しており、保護者の安心につなげています。利用者調査では、何でも相談できる信頼関係、職員の言葉遣いや態度、子どもの気持ちを大切にしている対応に該当する項目に、全ての回答者が肯定的に答える結果が得られています。

保護者同士の交流機会を設けるなど、保護者と園の育児や発達への共通認識を得ています

親子と一緒に映る写真を、園内に掲示しており、送迎時に顔を合わせる事が少ない家庭同士が、親近感を持つことにつながっています。また、保護者も一緒に参加するお散歩の会をはじめ、午前中の保育参観のあとに保護者の会食を勧めるなど、保護者同士が交流する機会作りにも努めています。父親の参加率が高いことが、当園の特長の一つとなっています。園が大切にしている保育、活動の方針は折に触れて丁寧に伝え、子どもたちの好きな遊び、玩具、仲間同士の関わり合い等の活動の様子は、園だよりのほかSNSも活用しながら伝えていきます。

相談の機会や各種情報の提供を通して、保護者の不安解消や養育力向上を図っています

保護者が子育てで悩んでいると思われることについては、職員も保育のヒントにする書籍などから引用して、園だよりで紹介しています。また、言葉が生まれるメカニズム、親から笑顔のメッセージを送ることの大切さ、テレビをつけずに過ごすことの意味、自律神経を整える機能等を取り上げることもあります。個別の相談ごとがあれば保護者と共に考えたり、外部機関の専門的な助言を取り入れるなど、支援の在り方を検討しています。短期間で解決しない問題に対しては時間をかけて丁寧に関わり、見通しを共有することで保護者の不安解消につなげていきます。

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>日常的に地域にお散歩に出掛け、近隣の方に子どもが大事にされる関係性を築いています</p> <p>地域に開かれた保育園になるよう、職員が率先して地域との関係性を築いています。園に隣接する家の人とは、挨拶や会話を交わす日常があり、子どもが野菜を育てるなど、土いじりができる畑を使わせてもらうこともあります。また、お昼に食べるパンを買いに行くことは、子どもの日課となっています。日常的に子どもたちは色々な世代の人に優しい言葉をかけられ、可愛がられることを実感しています。散歩で訪れる浅間山では、すれ違う人に子どもが進んで挨拶する姿がみられるなど、社会性や社交性の芽生えが育まれています。</p> <p>職場体験や連携園との活動等、子どもたちが職員以外の人と交流する機会を設けています</p> <p>子どもの生活の幅を広げる視点から、職員以外の人と交流する多様な機会を設けています。職業体験で受け入れている学生との関わりは、大きいお兄さんやお姉さんが相手になって遊んでくれる楽しい時間となっています。また、連携園との継続的な交流があり、公園で落ち合ったり園庭や行事に招くなど、一緒に過ごしています。仲間意識や対抗意識が芽生えるきっかけとなり、心の成長につながっています。さらに、地域の親子が園庭に遊びに来る交流会も開催しており、在園の子どもにとっては「お友達が来たよ」という感覚で一緒に活動することもあります。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-6	子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している
タイトル①	栄養士は自園の保育士だけでなく、連携園の調理師とも協力して食べる力を育てています	
内容①	<p>栄養士は、食材の切り方や見た目にも楽しい盛り付けに工夫を凝らしています。連携園(ひよここはちまん)にも同様の献立表を提供し、自ら出向いて子ども達の喫食状況を確認しています。また、連携園の調理師からの相談にも応じています。毎日提供している離乳食、幼児食、おやつを写真に撮り、コメントを添えた「今日の食事とおやつ」を保護者の目のつく所に掲示しています。保育士は、食事前にたくさん遊んでお腹を空かせるリズムを作り、子どもの側でおいしそうに食べて見せて、子ども自身の食べたいと思う気持ち(主体性)を育てています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-9	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている
タイトル②	大事にされることをはじめ、地域での様々な経験から子どもの豊かな心を育てています	
内容②	<p>職員が率先して近隣の方々との関係性を築いています。温かく優しく見守られる中で、子どもは自然に進んで挨拶をするなどの社交性を身に付けています。日課となっているパン屋さんへの買い物をはじめ、連携園の子どもと密接に関わる交流、園庭に遊びに来る地域の親子と一緒に過ごす時間を大事にしています。コロナ禍においても子どもの安全を守りながら、生活の幅を広げる関わりを継続することに力を入れてきました。少人数で家庭的な園で子どもの安心感を確保しながら、地域での様々な経験や交流を積極的に取り入れ、多様な心の成長につなげています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目		
タイトル③		
内容③		

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	戸外活動でのびのびと自然の中で遊び込む体験を積み重ねて、心身共に丈夫な体を作り、子どもたちの意欲と自信を育んでいます
	内容	園庭や散歩等での戸外遊びを毎日取り入れ、近くの浅間山や府中の森公園に出かけています。子どもたちは野山を駆け巡り、全身を活発に動かしてダイナミックに遊んでいます。日光を浴びて活動することで基礎体力や免疫機能が向上し、丈夫な体を作っています。歩く、走る、登るを繰り返すことで足腰が鍛えられ、バランス感覚も養われ、大きなけがが発生しなくなる効果を得ています。豊かな自然の中で、土、砂、水に触れ、友達と一緒に挑戦したり発見したりする体験は、自律神経と五感の発達を促し、子どもの意欲や自信を育てる取り組みとなっています。
2	タイトル	保護者との密接なコミュニケーションを通じて、子どもの育ちを大切にする園の活動への理解を深め、笑顔で通える園を作っています
	内容	親と子が安心して生活ができるよう、温かな保育をする園作りを進めています。職員の保育経験の豊富さは、子どもと保護者を丸ごと受け止める包容力として、安心感につながっています。「食べること、寝ること、遊ぶこと」を丁寧に重ねることで、子どもに一生モノの心と体の基礎を作るという方針は、活動を体感する機会提供やおたよりで保護者に伝え、共感を得ています。また、園運営全般に対して保護者から寄せられる意見について、園の見解と併せて共有する透明性も大切にしています。親子との信頼関係を築き、笑顔で通える保育園を作っています。
3	タイトル	手厚い職員配置と共通理解により安定した保育体制を確保しており、当園が子どもにとって最良の場所となるよう保育を実践しています
	内容	施設長、保育者(2歳児担当・リーダー、1歳児担当、0歳児担当)、栄養士の5名の職員が同一法人内の連携認可園の園長や看護師の支援も得ながら園運営を進めています。子どもの定員10名に対して職員5名という手厚い配置で、全員が保育士・栄養士の有資格者で常勤という安定した体制を確保しています。日々深く関わらざるを得ない職場環境の中で、人間関係と信頼関係が最重要との認識を全職員が共有しながら、当園が子どもにとって最良の場所となるように保育を実践しています。柔軟に職員間の関係を築き、温かみのある保育環境を提供しています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	当園の課題を法人の中・長期計画に盛り込んだり、単体の中期計画を策定するなどして、改善の方向性を明らかにすることが望めます
	内容	法人及び連携認可園の中・長期計画がありますが、当園に直接関わる内容が設定されていないこともあり、職員には共有されていません。収集・把握した意向やニーズ等から、保育面に限らず、園の運営・業務上に関わる課題も含めてリストアップし、複数年かけて解決していけるように、課題別の取り組みや、その着手時期、実行期間等を法人の中・長期計画に盛り込んだり、当園単独の中期計画を策定するなどして、方向性を明らかにすることが望めます。法人との協議の場も設け、当施設の改善課題に合わせた予算提案等ができる仕組み作りが望めます。
2	タイトル	3歳までの心と体の育ちについて丁寧に共有していることから、その先の成長も保育の「全体的な計画」に盛り込むこと等が期待されます
	内容	保育理念や基本方針のもと、概ね3歳までの心と体の育ちにつながる保育の「全体的な計画」を立案しています。この計画に基づいて個性あふれる子どもとして過ごせる環境を作る保育を進め、保護者の共感を得ています。一方で、卒園後の保育や教育の場について思い悩む保護者の姿があります。連携園への接続やその他の選択肢について情報を提供したり、相談に乗ったりしていますが、就学に向けてなど長期的な育ちの展望について、伝える機会を持つことには検討の余地が見られます。乳児期に養われた様々な力の展望についても共有することが期待されます。
3	タイトル	これまでに蓄積した保育業務に関する記録を整備するとともに、新たな共通書式を作成し、記録内容の充実を図る取り組みが期待されます
	内容	職員間で子どもの様子を細やかに報告し合い、日々の保育を振り返り、共通認識を図っています。屋会議や全体会議を定期的に行い、その内容をノートに手書きで記録しています。今後は、会議録を見直し、日時、出席者、議題、経緯、結論、次回予定を明示した共通の書式を作成する取り組みが期待されます。共通の書式を用いて記録の充実を図ることで、これまで熱心に話し合ってきた内容が整理され、業務の継続や見直しにつながると考えられます。また、個人情報の取り扱いの観点から、書類の施錠管理を徹底して、機密性・安全性を高めることも期待されます。